

2 対象地区の現状と課題

観光資源の状況

地区内の中心を宇治川が流れており、茶畑景観とともに雄大な自然美を形成しています。また、宇治川を挟んで平等院、宇治上神社の世界遺産があり、三室戸寺や興聖寺といった歴史資源も数多く存在し、自然と歴史が調和した美しい景観を創出しています。また、近年は源氏物語ミュージアムなどの新たな施設整備も進められ、国内、国外から多くの観光客が訪れており、宇治川太閤堤跡の発見により、観光地としてのさらなる魅力向上が望まれています。



宇治川の景観



平等院鳳凰堂



源氏物語ミュージアム



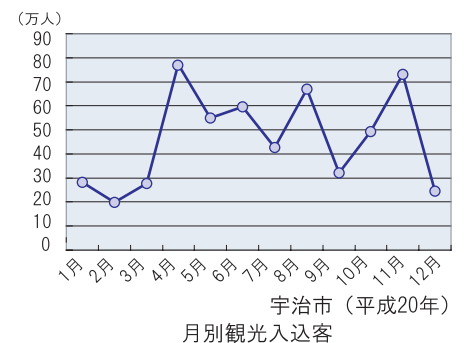
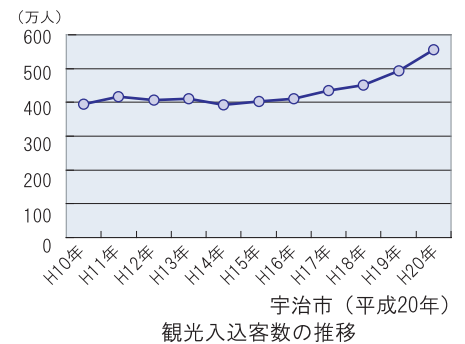
宇治上神社

観光及び地域の現状

本市を訪れる観光客は年々増加傾向にあります。平成20年には源氏物語千年紀の効果もあり、目標であった500万人を突破して556万人となりました。また、観光客の多くは日帰り観光客となっています。

月別の観光入込客数は、「宇治川さくらまつり」が行われる4月が最も多く、紅葉の時期である11月、「宇治川花火大会」が行われる8月、「県まつり」が行われる6月、ゴールデンウィークの5月、そして「宇治十帖スタンプラリー」や「灯り絵巻」が行われる10月の観光客が多くなっています。

対象地区には4つの商店街が分布しており、観光地としてだけでなく、市民にとっての生活の中心地としても機能しています。



まちづくりの課題

既存の上位・関連計画や関係者からのヒアリング結果から地域の課題を整理すると、次のとおりです。

1. 平等院や宇治上神社をはじめとする既存の歴史・文化資源の保全・活用
2. 既存まちなみ景観や周辺の自然景観、茶畑景観の保全・活用
3. 宇治川太閤堤跡の保存・活用を契機とした新たな魅力の創出
4. 周遊観光を促す観光拠点の形成と観光支援施設の整備
5. 飲食の場の確保など長時間滞在に対応した施設の充実
6. 観光シーズンにおける駐車場不足の解消と周辺道路の混雑緩和
7. 観光客へのPR推進、ターゲットの明確化
8. 安全な生活道路づくりをはじめとする地域のためのまちづくりと観光施策の一体化
9. 市民が主体となったまちづくりに関する新たな組織の構築
10. 茶業と観光の連携による宇治ブランドの構築

3 まちづくりの基本目標と基本方針

■ 基本目標

これまでの「源氏物語のまち・宇治」に加えて、「太閤秀吉とお茶のまち・宇治」を新たなテーマとし、幾重にも積み重なった歴史や文化の風格が漂うまちを目指して、次のとおりまちづくりの基本目標を定めました。

歴史と文化の風格が漂うお茶のまち・宇治

■ 基本方針

まちづくりの基本目標を実現するため、基本方針として以下の3つを定めました。

1 宇治の歴史・文化や景観を守り育てるまちづくり

宇治に暮らす人々が宇治の歴史や文化・景観に誇りと関心を持ち、これらをまちづくりに活かすとともに、宇治茶を文化としてさらに発展させ、未来に継承していくまちづくりを推進します。



2 来訪者が何度も来たくなる、潤いと賑わいあふれるまちづくり

宇治を訪れる人が、何度も来たくなるような魅力あふれるまちにするため、市民や関係者、行政が協働して潤いと賑わいの創出に向けた取り組みを推進します。



3 人々が安心して暮らせる環境に優しいまちづくり

地域の人々が安心して暮らせるよう、地域の生活環境の改善や公共空間のバリアフリー化を進めるとともに、環境に優しいまちづくりを推進します。



4 まちづくりの推進に向けた戦略

まちづくりの基本方針に基づき、特に必要と考えられる具体的な取り組みとして、次のとおり7つの戦略を定めました。

1 宇治川太閤堤跡の保存・活用と一体となった観光交流拠点の整備を推進する

平成19年9月に発見された「宇治川太閤堤跡」は、当時の治水技術の高さを知る上でもたいへん貴重かつ価値の高い堤防遺跡です。この太閤堤の造営を命じた秀吉は、宇治茶を愛し、茶詰を見物するため宇治に足を運んだことでも知られています。

そこで、宇治川太閤堤跡の保存に併せて、周辺を「秀吉とお茶」をテーマとする観光交流の場として整備を行い、市民や来訪者に愛される憩いの場として活用していきます。



2 宇治ならではの茶に関する様々な文化・伝統をさらに発展させ、未来に継承する取り組みを推進する

宇治茶は宇治を代表する産業であるだけでなく、茶の木の栽培や製茶・ブレンドの技術をはじめ、茶器やお茶の入れ方、作法など、お茶の作り手から消費に至るまでの様々な段階において、宇治の文化が息づいています。

こうした宇治ならではの茶に関する様々な文化・伝統をさらに発展させ、未来に継承する取り組みを推進します。



5 安心して暮らせる地域の生活環境の改善と、環境負荷の小さいまちづくりを推進する

地域で暮らす人々にとって、安全・安心は生活の基本です。また、宇治を訪れる人にとってもこうした生活環境があってこそ、何度も訪れたくなるまちと言えます。

市民や観光客にとって「歩いて暮らせる、歩いて回れるまち」を目指し、環境負荷の小さなまちづくりを進めます。



3 宇治の景観を守り育てるとともに、まちの賑わいを創出する取り組みを推進する

宇治市景観計画では中宇治地域を重点区域に定め、景観形成を推進しています。また、平成21年2月にはこの地域が文化的景観にも選定されたことから、ますます宇治の景観を守り育てることが重要になっています。

このことは、市民の誇りにつながるだけでなく、観光客誘致にとっても重要であり、まち全体の景観形成とあわせて、商店街を中心とした賑わい創出に向けた取り組みを進めます。



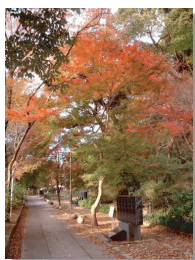
6 観光滞在時間の増加と観光シーズンの通年化を推進し、観光消費の拡大を図る

観光交流拠点の整備に合わせて、この場所を使ったイベントなどの充実や宇治茶を使った新たな土産物の開発など、地域や市民の取り組みを促進するとともに、レストランの誘致や宿泊施設の充実、商店街の営業時間の延長など、来訪者のニーズに応じた取り組みへの働きかけを進めます。



4 公共交通による来訪と徒歩による周遊観光を促進するとともに、宇治へのアクセス向上に向けた取り組みを推進する

宇治のまちは徒歩による周遊観光に適しており、環境面でも公共交通での来訪と徒歩による周遊観光を今後も推進することが大切です。このため、宇治川太閤堤跡の整備に合わせて新たな周遊ルートを設定し、整備するとともに、レンタサイクルの復活や案内板の整備を進めます。その一方で、来訪者の高齢化や余暇時間の増大に伴う様々な観光スタイルに対応するため、観光バスやマイカー駐車場の整備について検討を進めます。



7 インターネットやメディアなど、様々な手法を活用した情報発信の充実による宇治のブランド力向上を図る

「宇治」は全国的にも既に有名であることは疑う余地もありませんが、「宇治のまち」がこんなに近くて楽しいまちであるという情報が十分に伝わっているとは思えません。また、世界的に広まりつつある健康志向を背景としたお茶のブームに対しても、さらなる情報発信を進める必要があります。

このため、情報発信の手法についての検討を進め、宇治のブランド力向上を図ります。

